

CD44v9 is associated with epithelial- mesenchymal transition and poor outcomes in esophageal squamous cell carcinoma

谷口, 大介

<https://doi.org/10.15017/2348699>

出版情報 : 九州大学, 2019, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : (C) 2018 The Authors. This is an open access article under the terms of the Creative Commons Attribution License, which permits use, distribution and reproduction in any medium, provided the original work is properly cited.

(別紙様式2)

氏名	谷口 大介			
論文名	CD44v9 is associated with epithelial-mesenchymal transition and poor outcomes in esophageal squamous cell carcinoma			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	中川 尚志
	副査	九州大学	教授	古江 増隆
	副査	九州大学	教授	中山 敬一

論文審査の結果の要旨

癌幹細胞マーカーとして機能する CD44 には、選択的スプライシングにより複数の CD44 バリエーションアイソフォームが生成される。本研究では CD44 バリエーションアイソフォーム 9 (CD44v9) に注目し、食道扁平上皮癌でその役割がわかっていない上皮間葉移行 (EMT) と関連について検討した。免疫染色を用い、腫瘍中心部と比較し腫瘍先進部で、また、原発巣と比較しリンパ節転移巣で CD44v9 発現が高いことが明らかになった。特に腫瘍先進部における CD44v9 の発現が高いほど、有意に腫瘍の深達度および全生存率・無再発生存率が不良であった。食道扁平上皮癌のセルラインである ESCC 細胞を、EMT と同様の形態の細胞塊の形成を誘導する transforming growth factor - β で刺激すると CD44v9 発現は上昇した。さらに、CD44v9 発現を抑制すると ESCC 細胞の遊走能および浸潤能が低下した。これらの結果により、CD44v9 は食道扁平上皮癌における新しい予後予測バイオマーカーおよび治療標的となる可能性が示唆された。

以上の結果は、この方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについてもほぼ適切な解答を得た。よって調査委員合議の結果、試験は合格とした。